

新制度が机上の空論にならないために やまなしライフサポート理事長 中山八十司

“4月から生活困窮者への支援制度が始まります”

厚生労働省

「生活に困っている」、「仕事が見つからない」、「住む所がない」、「病気で働けない」、「家賃が払えない」、「将来が不安」→ひとりで抱えこまずにまずご相談！

「自立相談支援事業」：支援員が相談を受けて、あなただけの具体的な支援プランを作り、寄り添いながら自立に向けた支援を行います。

「住宅確保給付金の支給」：離職などにより住居を失った方、また失うおそれの高い方には、就職に向けた活動することを条件に、一定期間、家賃相当額を支給します。生活の土台となる住居を整えた上で、就労に向けた支援を行います。

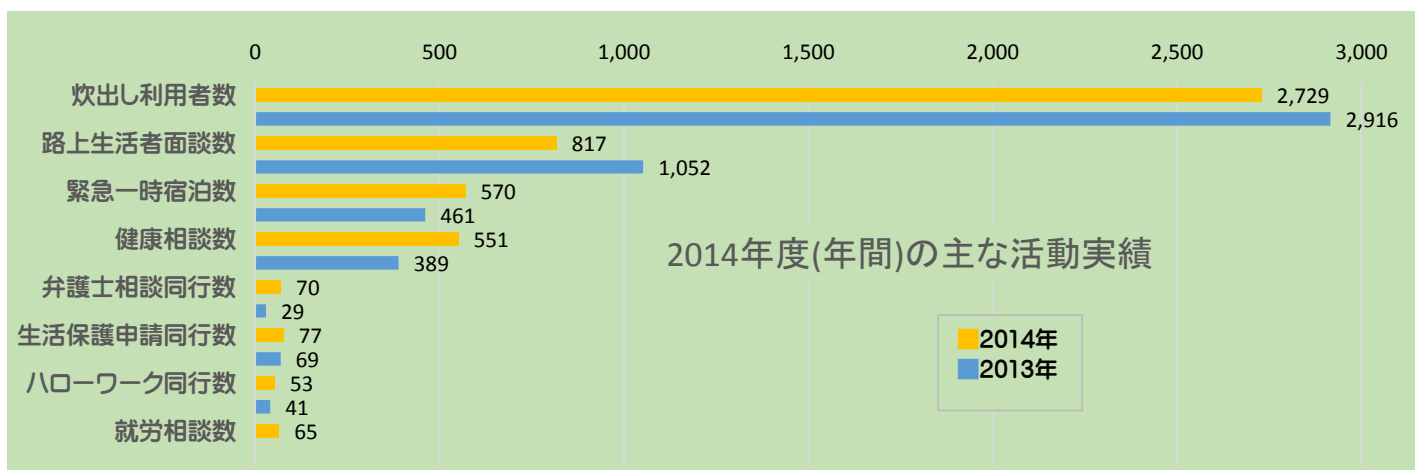
この厚生労働省から出されている素晴らしいチラシ広告は、今実際に路上生活をしている方々の手元にうまく届くのだろうか？それ以上に、この新しい政策の運用が全国の県や市町村に丸投げされる形になると、全国の異なる地域で生活している路上生活者や、生活困窮者の方々の人権といのちは本当に平等に守られるのだろうか？この制度の具体的な例として、「また、これまでのホームレス支援法の対象は路上生活者ですが、本制度はいわゆるネットカフェ難民などを含め、より早期に対応していくという考え方に立っています」、とありますが。

実際、ライフサポートで支援させて頂いてきている方や今年度に入ってから支援を求めてこられる40代から50代の方の「困っている事柄」は、上記のチラシに掲げられているものよりもはるかに深刻で緊迫している事例が多いのです。

「お金と食べ物と寝る場所がない」、「働いていて怪我をしたら、寮を追い出された」、「お金がなくて病院に行けない」、「お風呂に1か月以上入ってない」、「市役所に行ったら、あなただけがホームレスじゃないだよ、と言われた」、「生活保護の申請に行ったら、自分でアパートを探してから来いと言われたけど、保証人もいないし、内金もない」、「10年以上路上生活をしていたから、本籍も以前の住所もわからない」、「親族のことは全くわからないし、知人友人もいない」、「目が見えにくくなり、手が震えて字も書けない」。

こういう方々に対し、上記の新しい支援事業：「支援員が相談を受けて、あなただけの具体的な支援プランを作り、寄り添いながら自立に向けた支援を行います」が、どのように現実的に実施されていくのか期待すると同時に、ライフサポートのスタッフとして新制度を良く研究し、公共機関や他の支援組織と連携しながら心の通い合う温もりのある支援を続けていかなければなりません。

「NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク」が9つの取り組みを活動案内として掲げています。その中の第一に、「ホームレス状態に置かれている人々のいのちと権利が守られるための支援を行う」、第三に「国の行うべき自立支援やこれからの社会の在り方について提言を行う」、第六に「自立後の継続的な支援を行う」とあります。やまなしライフサポートの活動内容は今年度からの政策転換によって、予算的には大幅に制限されることは確かですが、今まで6年間の支援を通して築いてきた絆を活かして、自立後の多くの方々との関わりを大切にしながら、炊出しやふれあいサロン、定例見守りパトロール等の活動を充実していきたいと願っております。



ライフ荘状況

笛吹市石和町にある緊急一時宿泊施設「ライフ荘」は開設2年を経過し、多くの困窮者の支援に役立っています。

利用者状況(前年度下半期の一例)

利用月	年齢 性別	宿泊数	状況
10月	53歳 男性	12泊	甲斐市の公園で車上生活を約10年していた。親族への遠慮で生活保護を躊躇していたが、当NPOの地道な働きかけで申請を決意。生活保護にてアパート入居。
11月	69歳 男性	12泊	家賃滞納でアパートを退去し、甲府市内の公園で数日野宿。甲府市役所に相談に行ったところ、当NPOとライフ荘を紹介された。生活保護にてアパート入居。
12月	63歳 男性	14泊	ケガで失業し、ローンで建てた自宅が競売されて妻の実家に移ったが、長くは居られず。障害年金と生活保護の支援を行いアパートへ。
1月	44歳 男性	8泊	住み込みで働いていた勤務先が倒産し住居を失った。マンガ喫茶や路上生活を2ヶ月。生活保護にてアパート入居、ほどなく就職決定。
2月	56歳 女性	12泊	富士吉田市の知人宅を訪ねていた時にくも膜下出血を起こし入院。入院中に甲府市の住居を失った。富士吉田市の生活保護にてアパート入居。

利用者の声

【Kさん 男性・60代】

やまなしライフサポートは本当のライフサポート

今年1月まで長野県で仕事をしていましたが、勤務先との行き違いで退職しました。最後の給料は会社への返済金に充当したため無一文になり、住まい(会社の寮)も失いました。

とりあえず東京にある父母の墓参りをしようと、2月の寒い中歩き始めました。何も食べない日が2週間続き、体調不良となり吐血もするようになりました。甲斐市でとうとう動けなくなり、救急車で搬送され、即座に処置されて一命をとりとめました。1日遅れていたら死亡していたでしょうと医師に言われました。

病院の医師や担当の方々にも親切に対応していただき、退院後について甲斐市役所やライフサポートを手配していただきました。

どうなることやら不安でいっぱいでしたが、やまなしライフサポートで一時的な住居としてライフ荘にて朝・昼・晩の食事を1週間以上面倒みてもらい、その間に生活保護の申請やアパートの手配をしていただきました。

さらにびっくりしたのが、寝具・冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ・炊飯ジャーといった生活用品の提供や、生活保護のお金が出るまでの食材まで手配していただいたことです。世の中にこんな素晴らしいことをするところがあるのが不思議に思えたのと同時に、ありがたさが身に染みしました。

体調も本調子といかなくとも大分良くなり、現在は今までの経験を活かせる仕事がないか探しつつ、やまなしライフサポートのボランティアをさせてもらっています。

清掃ボランティアを行いました

炊出し利用者や当NPO支援者の社会貢献活動の一環として、甲府市内の公園や道路の清掃ボランティアを実施しました。

昨秋、落ち葉の多い11月～12月にかけて、遊亀公園と平和通りにて4回の清掃を行いました。

清掃によって公園や道路がきれいになると、参加された皆さんは達成感と共に、社会貢献しているという実感を持っていただけたように感じます。清掃終了後に配布した弁当を、仲良く公園のベンチで食べている様子はほのぼのとしたものでした。

たくさんの落ち葉が集まりました →



巡回訪問看護師より

やっとながった！Sさん

甲府駅北口の歴史公園で路上生活をしていたSさんを、1年前からスタッフと共に巡回訪問していましたが、今年の4月、韮崎市の施設に入所することができました。

先日、施設に伺いSさんに会ってきました。風呂から上がったばかりのSさんはちょっと痩せた感じ(むくみがとれた)で顔色や表情はいたって元気な様子でした。施設の方と一緒に自分の部屋や食堂、軽作業場を案内してくれました。

2人部屋のベッドの上にはきちんとたたまれた上掛けがおかれ清潔な生活ぶりでした。特にトラブルなく過ごしているそうです。(施設の看護師さんによると、胸部動脈瘤10cm大が見つかり、本人も治療を希望しているので手術予定とのこと。また独語が見られるので精神科にも繋げていく方向)

思えば正月明けの寒い日でした。今年4月から国の「絆」再生事業の補助金が打ち切られ、これまでのような

支援ができなくなるということで、いつまでも煮え切らないSさんを何とか路上から屋根のある場所にと、積極的な行動に出ようと理事長と決めました。

3月12日、その日はバケツ、湯、石鹸を公園に持ち込み、まず足湯で暖をとらせ、一緒にお茶を飲みながら「Sさん、今一番何をしたいの？」と話しかけると、「自立したい！」と一言。「じゃあ身ぎれいにしよう」と約束し、一週間後、準備を整えてスタッフで散髪、髭剃り、着替えを行いそのまま大急ぎで市役所に同行し、相談の結果出身地である北杜市で生活保護の申請することができました。

この間の活動を通して良かったと思うことは、長い月日を要しましたが、私たちの支援が行政そして医療につながり、Sさんが笑顔を取り戻し心を開いてくれたことです。ひとりぼっちで路上にいたSさん、大手術になると思いますが頑張ってください。

(宮坂菊代さん)

炊出しボランティアさんより

甲府カトリック教会で炊き出しをしているという話を数年前から聞いていました。時間の余裕ができたので、毎週木曜日の炊出しに調理のお手伝いに参加させていただいております。また、周囲の方から食材(野菜、卵、お米等)の寄付をお預かりして届けてもいます。とても尊い食材です。炊出しのことを耳にした方々のつながりが広がり、品物の提供のお手伝いをも応援してくれます。

まず、いただいた食材を見てメニューを考えます。そして調理。「大根は何切り？人参は？」、「今日の煮物の味付けは少し薄くない？」年配のボランティアさんの言葉で、若い学生さんまで調理に加わり、時には楽しい会話の場にもなります。

炊出しに来られない方のため、市販の弁当屋さんでは食べられない、野菜を活かした彩りのある弁当も作ります。今の時期は旬のもの(ふきのとう、ウド、タラの芽、こごみ等)をお浸しに、煮物にはたけのこ、ふきのとう。野菜も豊富なお弁当です。

4時30分には配食開始。今日の食事もおいしいですよ～！(雨宮善治さん)



↑ ニックネームは「料理長」

→ 毎回のメニューはしっかり記録



今年度事業のご案内

本年4月からの生活困窮者自立支援法施行に伴い、従来の国庫補助金が廃止となりました。今年度より同支援法に基づく各自治体からの委託金により事業を行うこととなりますが、事業委託は山梨県13市中7市のみで、最大市の甲府市が委託しないこともあり、当 NPO の事業資金は前年度の6分の1程度と激減しています。そのため、大変不本意ながら右表のとおり活動を縮小せざるを得なくなりました。

定住型の路上生活者は当 NPO の支援活動により、かなり減少しましたが、失業や離婚等により突然生活困窮に直面したり、住居を失う方は減る気配を見せません。

このような状況のもと、困窮されている方々の生活と生命を守るため、諸連携団体やボランティアのご協力を得ながら、少ない資金で最大限の成果をあげられるよう努力してまいります。

また、今年度の資金不足を補うために各種助成金の獲得を目指す一方で、皆さまからの会費を増額させていただきました。同時に、次年度以降の自治体からの委託拡大のため、各市や県への働きかけを強めてまいります。皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたします。

	今年度	前年度
業務曜日	週4日(火～金)	週5日(月～金)
相談員	1日当たり1名	1日当たり3名
ライフ荘	1部屋	4部屋
炊出し、弁当配布	(変更なし)	毎週木曜日
健康相談	月1回程度	毎週木曜日
パーソナルサポーター養成講座	中止	年2回開催
・同行支援(福祉事務所、医療機関等) ・手続き支援(生保申請、住民登録等) ・住居支援(物件探し、生活用品提供等)	委託自治体中心の活動	全市町村への対応

物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしくご協力いたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン

ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア
 - ・毎週木曜日 午後2時～5時(一部でも可)、甲府カトリック教会にて
 - ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。
2. 見守りパトロール
 - ・毎月第4日曜日 午後2時～4時30分頃 甲府カトリック教会集合
(8月、12月は夜間パトロールとなります)
 - ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

	年会費
会員(当団体を支援し活動に参加してくださる方。総会での議決権有り)	個人 5,000円 団体 10,000円
賛助会員(当団体の活動を応援してくださる方)	個人 5,000円 団体 10,000円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://www6.nns.ne.jp/~yls/information.html>)からダウンロードすることができます。また、お電話いただければ郵送させていただきます。